



第411号

2021年4月

〒461-0004 名古屋市東区葵2丁目6-35 カトリック名古屋教区広報部 電話 (052) 935-2223 FAX (052) 935-2254 news@nagoya-diocese.jp 印刷所 株式会社 荒川印刷 毎月第1日曜日発行

4月2日(金)	4月11日(日)	4月25日(日)
聖地のための	神のいつくしみ	世界召命祈願
献金	の主日	の日

教区ホームページ

福音のひびき

4月の説教者

4日	復活の主日	暮林 響 (神言修道会)
11日	復活節第2主日	鄭 有喆 (小牧教会)
18日	復活節第3主日	島袋 幹男 (聖心教会)
25日	復活節第4主日	ヨハン・アドリアヌス・レインゲル (多治見教会)

東日本大震災から10年をむかえて 司教団メッセージ

「連帯のきずなを希望の光に」東日本大震災復興10年を迎えて」

2011年3月11日に発生した、東日本大震災と福島原発事故から10年となる。あらためて、亡くなられた方の永遠の安息を祈り、すべての被災者のために祈りを捧げたい。

兄弟姉妹の皆様

未曾有の大災害が、東北の太平洋沿岸部を中心に東日本を襲ってから10年となりました。この間、亡くなられた方は2万人近くに及び、行方不明者は2,500人を超え、現在でも4万人以上の方が避難生活を続けておられます。あらためて、亡くなられた方の永遠の安息を祈り、すべての被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

1. ボランティアと募金

想像を遙かに超える被害の中、国内は言うに及ばず、世界各地から多くの方が支援に駆けつけました。東北各地の復興に寄り添い歩みをとるボランティアの活動は、世界に広がる連帯のきずなを生み出し、その後の各地で頻発する災害支援活動に繋がっています。

日本のカトリック教会

またカトリック教会のこ

またカトリック教会のこ

またカトリック教会のこ

またカトリック教会のこ

またカトリック教会のこ

連帯のきずなを希望の光に

東日本大震災復興10年を迎えて

日本カトリック司教団

またカトリック教会の人道支援団体であるカリタスジャパンは、世界各地のカリタス組織からの資金援助を受け、さらには国内からの多くの方の募金をいただき、東北における復興支援活動を側面から支えてきました。

またカトリック教会のこ

またカトリック教会のこ

東日本大震災復興支援10年

ありがとう。そして、これからも

大阪教区司教団の感謝のことば

1. 日本カトリック教会 オールジャパン支 援体制終了

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故から、この3月で10年となりました。日本のカトリック教会は同年6月には、被害の大きさ、復興の長期化に鑑み、被災地を統括する仙台教区のサポートセンターを中心に、16教区オールジャパンでの復興支援体制をとり、三教区(東京・大阪・長崎)はそれぞれの被災地域(長崎管区・岩手県・大阪管区・宮城県、東京管区・福島県)で支援活動を開始しました。そして、2021年3月をもって支援体制を終了するにあたり、司教団は「連帯のきずなを希望の光に」東日本大震災復興10年を迎えて」という司教団メッセージを3月11日付で発表しました。

大阪教区管区司教団は、この10年間物心両面にわたり、大阪教区管区の支援活動にご協力をいただいた皆さまへ、感謝のことばとともに、活動の報告をさせていただきます。

2. 大船渡プロジェクト・カリタス大船渡ベース概要

大阪教区管区の5教区(名古屋、京都、大阪、広島、高松)は当初、宮城県気仙沼を検討しまし

たが、沿岸近くにありながら高台に建ち、津波の被害をかううじて免れたカトリック大船渡教会を拠点とすることに、同教会の信徒の皆さま方と協力して緊急支援を始めました。2012年1月14日には、教会近くに購入した土地に、地域支援と周辺地域のコミュニケーションセンターの拠点として「カリタスジャパン大船渡ベース」の森いこいの家を開所し、被災者に寄り添い、地域の交わりを形成する支援に力を注いでまいりました。

3. カリタス南三陸ベースへの支援概要

「カリタスジャパン米川ベース」は宮城県南三陸町を支援するため、最寄りのカトリック米川教会を拠点に緊急支援を始め、2011年4月30日に近隣の公民館建物を利用して開始しました。その後、「カリタス南三陸ベース」と改称しました。当初は、仙台サポートセンターの管轄でしたが、2016年10月1日から大阪教区管区に移管され、管区から活動費の支援を始めました。そして、2021年からは新たに一般社団法人として再出発することになりました。

4. 大阪教区管区からの支援総括

大阪教区管区は、2011年5月に大船渡ベ

ースに3000万円の割合で分配することにしました。なお、資金管理は、引き続き大阪大司教区経理課に委託されました。これにより、南三陸ベースについては、「一般社団法人」としての活動が5/6年継続可能となります。大船渡ベースは、これまで人件費部分はカリタスジャパンからの援助でしたが、その人件費分も今後は含まれるため、現在の運営経費(年2000万円)から推測して3/4年の継続が可能となります。最終的な会計報告は、残額が終了する時点であらためておこなう予定です。

5. これからも復興の歩みとともに

世界中がコロナ禍の危機に晒されるなか、東日本大震災や福島原発事故は10年を経過し忘れ去られる状況にあります。これからは、自立した大船渡ベースと南三陸ベースは、それぞれ新たな復興、新しい創造を発信していくと思えます。大阪教区管区は支援終了を告げますが、これからも心を合わせて、両ベースの歩みに寄り添ってまいります。

2019年11月に日本を訪れた教皇フランシスコは、東北の被災地の方々との集いにおいて、「二人で『復興』できる人はどこにもいません。だれも一人では再出発できません。町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」と述べられました。これまで10年間、大阪教区管区が被災地での多くの人の出会い、生まれたつながりは、決して切れることはありません。仙台教区サポートセンターの活動は2021年3月をもって終了しますが、旧カリタスベースがつかう「カリタスみちのく」が設立され、南三陸と大船渡がその要の役割を担うようです。

日本のカトリック教会はこれからも、かわり形を変えながら、それぞれの被災地にある教会を通じて、地域共同体のさらなる復興に微力ながら貢献させていただきたいと思えます。

あらためて、これまで支援してくださった大阪教区管区の皆さまに感謝するとともに、これから被災地の方々のために、お祈りくださるようお願いいたします。

以下、会計報告をいたします。今日をもちまして、寄付の受付は終了いたします。これまでありがとうございました。ごさいました。

2021年3月11日 カトリック大阪教区管区司教団

(単位:円)		2020年12月末現在
収入	寄付金 計	183,771,960
	大船渡ベース	61,351,240
支出	南三陸ベース	19,543,071
	計	80,894,311
収支差額	合計	102,877,649

東日本大震災・福島原発事故犠牲者追悼・復興祈願の日

14時46分 あなたの思いを祈りに込めて



カトリック名古屋教区は、近年3月11日に「諸宗教者と共に追悼の集い」を行ってきたが、今年度はコロナ禍にあつて行事の自粛が求められた。諸宗教者合同で追悼復興の集いを断念し、各教団でそれぞれに追悼す

カトリック名古屋教区は、近年3月11日に「諸宗教者と共に追悼の集い」を行ってきたが、今年度はコロナ禍にあつて行事の自粛が求められた。諸宗教者合同で追悼復興の集いを断念し、各教団でそれぞれに追悼す

者の追悼・復興祈願のミサを行った。各小教区でもこの時刻に合わせて、それぞれの形での祈りの時をもった。

カテドラルでのミサは松浦悟郎司教の司式で行われ、野村司教と7人の司祭と助祭を合わせて10人の司祭団の入堂があった。また各ブロックから代表者を合わせて、約100人の信徒が参加した。

司祭団の入堂とともに、中央の祭壇の前に置かれた震災当時の写真に、10年の復興の歩みを示す10個のろうそくが奉納され、14時46分に追悼の鐘が鳴ると、堂内は深い沈黙に包まれ、10年前の出来事と被災者の苦しみ、復興への道のりに思いを寄せ、1分間の祈りが捧げられた。

ミサの説教で松浦司教は「大震災を通して味

わったとてつもない自然の驚異と人間の弱さ、しかし同時に、それを通して世界中に沸き起こった人々の連帯と愛の力、そして死と生をつなぐ祈り」について語られた。そして「これからも傷み

のなかにある人や悲しむ人との出会い、一緒に歩んでいくことの大切さ」を呼びかけられた。参列者はそのメッセージを心に留め、犠牲者追悼・復興祈願の日を終えた。なお当日のミサ献金は86,200円だった。

3. 11追悼・復興祈実実行委員会
宣教司牧評議会
社会福音化推進部

世界召命祈願の日

4月25日(日)

ある人は職場で働く人として、またある人は良き家庭人として、そしてある人は、司祭、修道者となるように招かれています。自分に対する神の望みを祈りのうちに探していくことが大切です。「世界召命祈願の日」には、とくに司祭、修道者への招き(召命)に一人でも多くの人がかたえることができるように祈りがさげられます。

聖地のための献金

4月2日(金)

パレスチナ各地の巡礼地とヨーロッパからの巡礼者保護を託されていたフランシスコ会の修道者たちは、政情不安などのためにたいへんな苦勞をしていました。彼らを支えるために聖地献金は始まりました。主の受難と死を記念する聖金曜日に世界のすべての小教区で行われ、ローマ教皇庁で集められ、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある多くの巡礼所や聖堂の維持管理、聖地の貧しい兄弟姉妹の福祉・教育の施設の運営、奨学金や生活保護のために使われています。

ヨセフ年

2020年12月8日
2021年12月8日

ラウダート・シ 特別年

2020年5月24日
2021年5月24日

ラウダート・シ 特別年

2020年5月24日
2021年5月24日

3. 11追悼・復興祈実実行委員会
宣教司牧評議会
社会福音化推進部

A BOND OF SOLIDARITY BECOMES A BEACON OF HOPE Ten Years of Great East Japan Earthquake Reconstruction

March 11, 2021

Dear Brothers and Sisters,

It has been 10 years since an unprecedented catastrophe struck eastern Japan, mainly along the Pacific coast of Tohoku. Nearly 20,000 people died, the fates of more than 2,500 people remain unknown, and more than 40,000 people continue to live as evacuees. We continue to pray for the eternal rest of the deceased and extend our deepest sympathies to all the victims.

Thanks to volunteers, fundraisers and supporters

In the face of damage far greater than we could have imagined, many people not only in Japan but from all over the world rushed to support us. The activities of volunteers who have worked closely with the reconstruction efforts in various parts of Tohoku have built bonds of solidarity that have spread throughout the world. Those bonds have led to further relief activities in various parts of the country that have experienced disasters since then.

On March 16, 2011, immediately after the disaster, the Catholic Church in Japan established a center for reconstruction assistance in Sendai and began activities centered on the Catholic Diocese of Sendai, which has responsibility for the Tohoku region. At the end of March, the country's 16 dioceses agreed to work together to provide reconstruction assistance for 10 years. Based on this resolution, they established eight volunteer bases in various parts of the Tohoku coast to accept volunteers from all over the country.ⁱ

We want to express our heartfelt gratitude to the many volunteers who rushed to the volunteer bases from inside and outside the Church and from Japan and abroad and participated in activities together with the people in the disaster-stricken areas over the past decade. There could have been no reconstruction support activities without the presence of volunteers. We would also like to thank local governments and social welfare councils for their understanding of this work of the Catholic Church and for the opportunity to work together.

In addition, Caritas Japan, the humanitarian organization of the Catholic Church in Japan, received financial support from Caritas organizations around the world, as well as donations from many people in Japan. Caritas Japan joined reconstruction support activities in Tohoku. Fund-raising activities were carried out for months and years after the earthquake, expanding the circle of goodwill. We express our sincere gratitude to the many donors in Japan and overseas who have supported our reconstruction activities over the past decade.ⁱⁱ

Moving Ahead as "A New Creation"

As a locally rooted presence even before the disaster, the Catholic Church has aimed to create hope for life not only in temporary relief efforts, but also in the future as it works together with the people of Tohoku. When the Catholic Diocese of Sendai, which has responsibility for the disaster-stricken areas, took the lead in reconstruction assistance with the motto "A New Creation," it chose to continue moving forward with hope rather than returning to the past. Church activities will not end at the 10-year milestone.ⁱⁱⁱ

At a gathering with people from the disaster-stricken areas of Tohoku during his visit to Japan in November 2019, Pope Francis said, "many people, not only from Japan, but from all over the world, mobilized immediately after the disasters to support the victims with an outpouring of prayers and material and financial aid. We should not let this action be lost with the passage of time or disappear after the initial shock; rather, we should continue and sustain it."^{iv}

Ten years have passed, and some volunteer bases have already completed their activities. Others have developed into NPOs, etc. Through its local parishes the Catholic Church in Japan will continue to change the shape of its relationships and contribute to the further reconstruction of local communities.

Pope Francis also said, "Without basic resources such as food, clothing and shelter, it is not possible to live a worthy life and have the bare minimum needed to succeed in rebuilding. This, in turn, calls for experiencing the solidarity and support of a community. No one 'rebuilds' by himself or herself; nobody can start over alone. We have to find a friendly and fraternal hand, capable of helping to raise not just a city, but also our horizon and our hope."^v

Guided by these words, the Catholic Church in Japan is not limited to material support but will continue to walk in the bonds of solidarity with the people of Tohoku as friends, brothers and sisters, a solidarity that spreads around the world to "raise ... our horizon and our hope."

Abolition of nuclear power plants and ecological conversion

In November 2011, eight months after the earthquake and in response to the nuclear power plant accident in Fukushima the bishops released a message "Abolish Nuclear Power Plants Immediately." In it, we called for the immediate abolition of nuclear power plants from the standpoint of believers who protect life, the gift of God. At the same time, we stressed that "Christians have an obligation to bear genuine witness to the Gospel especially through the ways of life expected by God: 'simplicity of life, the spirit of prayer, charity towards all, especially towards the lowly and the poor, obedience and humility, detachment and self-sacrifice.'" We proposed a new look at the way society should be.^{vi}

Unfortunately, we feel that over time the situation is moving in a different direction from this call. Ten years after the accident, we renew our call for the immediate abolition of nuclear power plants and a review of lifestyles.

The Catholic Church believes that human life is a gift from God. The theme of Pope Francis' visit to Japan was "Protect All Life." Responding to the pope's call, we want to bring about a society in which all life is protected without exception, its dignity is preserved, and no one is forgotten.

Now with the coronavirus pandemic the world is in solidarity to "Protect All Life." Pope Francis calls on us to go to those in need of help, to those who are isolated and facing the crises of life in this modern world of conflict and division, discrimination and exclusion, isolation and loneliness.

When we were struck by that unprecedented disaster, we felt the limits of human wisdom and knowledge. Before the power of nature, we understood how weak we are. At that time, we engraved on our hearts the importance of helping each other, the importance of solidarity to protect life, and the importance of a caring heart. Now, 10 years after the great earthquake and tsunami, the world surely needs to think about that importance.

As we mark the 10th anniversary of the Great East Japan Earthquake, we pray for the eternal rest of those who have died and pray for the blessings and protection of God for the many who have been affected by the disaster. In the bonds of solidarity with one another let us journey hand in hand to find the light of hope.

Catholic Bishops' Conference of Japan

ⁱ Sapporo Caritas Miyako Base, Caritas Otsuchi Base, Caritas Kamaishi, Caritas Ofunato Base, Caritas Yonekawa Base, Caritas Ishinomaki Base, Caritas Minamisoma, Iwaki Fir Tree Support Center. In addition, there are other bases such as the Independence Center for Persons with Disabilities conducted by the Nagoya Diocese.

ⁱⁱ As of December 15, 2020, the total amount of aid from Caritas Japan was ¥2,434,749,157. Donations in Japan to Caritas amounted to ¥991,508,908, while ¥1,868,856,927 (including ¥739,822,350 from the United States) came from overseas.

ⁱⁱⁱ See "Sendai Diocese New Creation Basic Plan", Sendai Catholic Diocese Newsletter No.199, May 15, 2011. (Japanese only)

^{iv} Pope Francis, Meeting with the victims of Triple Disaster, (Apostolic Journey to Japan: Meeting with the victims of Triple Disaster - Activities of the Holy Father Pope Francis | Vatican.va).

^v Ibid.

^{vi} [Comments on the Bishops' Message "Abolish Nuclear Plants Immediately" | カトリック中央協議会 (catholic.jp) (Nov. 10, 2011)].

On November 11, 2016, the Catholic Bishops of Japan published "A Message from the Catholic Bishops' Conference of Japan to All the People of Earth, Our Common Home." (On the Abolition of Nuclear Power Generation: A Call by the Catholic Church in Japan Five and a Half Years after the Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Plant Disaster | カトリック中央協議会).

Earlier, in November 2011, eight months after the Great East Japan Earthquake, the bishops announced plans for a book that would complement and support their de-nuclearization message scientifically, philosophically, and theologically. It was published on October 4, 2016. An English-language version was published in July 2020 and is available for download on the CBCJ website, ("ABOLITION OF NUCLEAR POWER An Appeal from the Catholic Church in Japan" English version Released | カトリック中央協議会). Based on Japan's history of using of nuclear energy, the book questions the nation's responsibility as the site of a nuclear accident. It gives a scientific explanation of nuclear technology, and referring to the May 24, 2015 encyclical Laudato Si': On Care for Our Common Home of Pope Francis, it develops an ethical consideration of nuclear power based on Catholic doctrine and modern environmental thought.

2021年度定例司教総会を 開催

日本カトリック司教協議会(会長・高見三明大司教/長崎教区)は、2021年度の定例司教総会(2月15日(18日)をオンラインで開き、12の議案について審議した。主な項目は次の通り。

○環境問題への取り組みに向け「ラウダート・シ」チーム(仮称)が発足し、方針策定へ、高見三明大司教(長崎教区)、ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区)、山野内倫昭司教(さいたま教区)、成井大介司教(新潟教区)の4人がチームメンバーとして選出された。

○「聖ヨセフの連願」と「聖ヨセフへの祈り」を司教協議会の公式な祈りとして承認した。

た。カトリック中央協議会ウェブサイトを参照。

○昨年まで「受難の主日」に祝っていた「世界青年の日」を、今年から「王であるキリストの祭日」に祝うという教皇フランシスコの発表を受けて、日本の教会も今年からそれにならうことを確認した。

○「東日本大震災被災者のための祈り」に加え、今後想定されるあらゆる災害時に祈ることができるよう提案された「災害被災者のための祈り」を、司教協議会の公式な祈りとする事が承認された。カトリック中央協議会ウェブサイトを参照。

新しい「災害被災者のための祈り」

今後想定されるあらゆる災害時に祈ることができる「災害被災者のための祈り」が、公式な祈りとして承認された。新しい祈りは次の通り、なおカトリック中央協議会ウェブサイトで公表されている。

不安な日々を過ごす人々の心を照らし、希望を失うことがないよう支えてください。また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。すべての人の苦しみを担われたキリストが、いつもともにいてくださることを、祈りと行動によってあかしてきますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。
(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会認可)

教皇フランシスコ、「ヨセフ年」を宣言

教皇フランシスコは昨年12月8日、使徒的書簡「パトリス・コルデ」(父親の心で)を発表し、あわせて2021年12月8日までの一年間を「ヨセフ年」とすることを宣言している。

聖ヨセフへの祈り

聖ヨセフよ、わたしたちは苦難の中からあなたにより頼み、あなたの妻、聖マリアの助けとともに、あなたの保護を心から願います。
あなたと汚れないおとめマリアを結んだ愛、幼子イエスを抱いた父の愛に信頼して、心から祈ります。
イエス・キリストがご自分の血によってあがなわれた世界をいっくしみ深く顧み、困難のうちにあ

「ヨセフ年にあたって」と題する日本カトリック司教協議会会長談話とカテケジス、「聖ヨセフの連願」、「聖ヨセフへの祈り」はカトリック中央協議会HPを参照のこと。

愛に満ちた父ヨセフよ、わたしたちから過ちと腐敗をたらすあらゆる悪を遠ざけてください。
力強い保護者よ、闇の力と戦うわたしたちを顧み、天から助けを下さる。天における永遠の幸せにあずかることができますように。
アーメン。
(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会 定例司教総会認可)

ヨゼフ石脇慶總神父 ヨハネ・ボスコ寺田正親神父 帰天



立った。両神父は共に91歳で、60年以上の司祭生活であった。葬儀ミサは3月11日に布池司教座聖堂で、松浦悟郎司教、野村純一名誉司教、約20人の司祭、助祭により葬儀ミサが3月11日に捧げられた。コロナ禍でまだ自粛生活が続いている状況の中、約130

長きにわたり名古屋教区を支えてきた二人の司祭が3月9日、ほほ時を同じくして天国へと旅

人が参列した。説教の中で松浦司教は、両司祭の最後の様子を次のように語った。
「共に末期癌の病にあった二人は、お互いまるで夢の中で話し合ったかのように一緒に神さまのもとへ旅立った。体の大きな寺田神父が小柄な石脇神父の体を支え、手をつないで天国へ迎えられて行く様子を絵に描くように思い浮かべることができた」
「石脇神父は、主に鳴海教会に留まり、自分の持っている進歩的で深い知識すべてを、わかりやすく信徒に伝えようとしていた。病院ではなく自宅で療養することを望み、司教が訪問して病者

に、今も神の聖なる教会を、あらゆる敵意と悪意から守ってください。
聖家族の賢明な守護者よ、イエス・キリストの選ばれた子らを見守ってください。
あなたに模範と助けに支えられて聖なる生活を送り、信仰のうちに死を迎え、天における永遠の幸せにあずかることができますように。
アーメン。
(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会 定例司教総会認可)

教会の暦

「過越の聖なる三日間」

- 4月1日(木) 聖木曜日 (主の晩さん)
- 4月2日(金) 聖金曜日 (主の受難)
- 4月3日(土) 聖土曜日 (復活徹夜祭)
- 4月4日(日) 復活の主日

キリストは救いのわざを過越の神秘によって成就された。だからキリストが死を「過越し」て新しいいのちに移られたこと

速報!

新教皇大使は イタリア出身

教皇フランシスコは3月11日付で新駐日教皇大使として、イタリア出身

のレオ・ポツカルデイ大司教を任命したと発表した。ポツカルデイ大司教はイランの教皇大使を務めていた。
詳細は情報が分かり次第に掲載します。



の塗油の秘跡を授ける時には、いつも「ストラを」と言っていたことが耳に残っている

「寺田神父は、まだ若い助任司祭の時に外語専門学校を設立し、亡くなる直前まで学生たちと深く関わっていた。若者たちに情熱を持ってキリス

トを伝え、その中から洗礼に導かれた人が何人もいる。明日はちょうど専門学校の卒業式。天国にいる寺田神父は、むしろもっと近くで学生たちを送ることでしよう」
「二人の共通点は、たいへんな勉強家で研究熱心だったこと。その豊かな知識を人々に伝えていくことを最後の最後まで情熱を持って使命としていた。二人が示してくれた生きざまをキリスト者、司祭として受けついでいき、その後に続く決意を新たにしたい」
告別式では遺族、司祭団が献花を行い、棺を囲んで「サルヴェレジナ」を歌い、両司祭を葬送した。

性虐待被害者のための 祈りと償いの日

祈りと償いの日



教皇フランシスコによる「性虐待被害者のための祈りと償いの日」(日本では毎年、四旬節第2金曜日とされている)に当たって3月5日、布池司教座聖堂では松浦悟郎司教によりミサがささげられた。
はじめに松浦司教は、司教団が出したメッセージからの言葉をとり上げ、「傷ついた被害者の方々の悲しみと苦しみを理解し、彼ら彼女らのいやしと回復を神の前の心を合わせて私

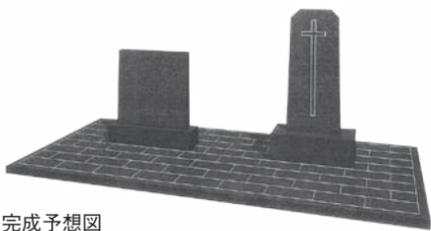
に祈り、また教会がこの困難な状況を乗り越えるための恵みと力を神に祈りましょう」と意向を説明した。
共同祈願でも、被害者のいやし、加害者の悔い改め、聖職者の使命、弱い立場にある子どもたちのためにとの意向で祈りが唱えられた。ミサの終わりに、このような性暴力を二度と起こさないという名古屋教区の決意表明が読み上げられた。朝7時からのミサのため参加者は多くなかったが、参加したシスター、信徒たちと司教、司祭は神の前に心を合わせて私

富山地区 四旬節 『オンラインde 十字架の道行き』

今年の四旬節の期間中、主に富山地区の信徒を対象として、自宅から参加できる「オンラインde十字架の道行き」が行われてきた。パソコンがあれば操作は簡単で、富山教会が中心となって各家庭とオンライン直結で見ることができ、参加者からは「集中して参加できる」と好評だった。(富山教会 片岡義博)

美濃・尾張キリシタン顕彰碑 建設募金のお願い2021

カトリック名古屋教区は2018年度より岐阜県可児市塩に、殉教地記念塔建設事業を推進するため、資金を募り、これまでに建設地の造成工事を完了することができました。
今後は、顕彰碑と記念塔の建設事業を進め、目標金額に届かなかった300万円分の募金活動を継続致しましょう。経済状況の非常に厳しい時期ですが、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。



完成予想図

目標金額まで残り300万円

振込先 郵便振替 カトリック名古屋教区 00810-5-50605
通信欄に「美濃・尾張キリシタン顕彰碑建設募金」と明記。
問合せ カトリック名古屋教区宣教司 牧評議会殉教者顕彰委員会 担当 早川和彦助祭
〒461-0004 名古屋市中区葵2-6-35 ☎052-936-8366 Fax 052-935-2254

東日本大震災・福島原発事故、災害支援金の報告

★発災時よりカリタス福祉委員会へ振込された支援金のご報告
・2011.3.17(発災後募金開始)から 2021.2.28までの合計 32,551,465円
☆2021年1~2月 振込された支援金
5件 119,655円 (振込手数料引き去り後の金額)
振込ご協力いただいた小教区、個人(敬称略) 金沢教会2件、ピース9の会たてやま富山教会一同、山田 文、匿名希望1件

★東日本大震災・福島原発事故、災害支援金について
名古屋教区は、大阪教会管区震災復興支援プロジェクト、福島での原発被災支援活動をされている団体を中心に支援してまいりましたが、2021年3月をもちまして10年間の東日本大震災・福島原発事故災害支援金受付は終了致しました。長年にわたるご支援に心より感謝申し上げます。今後とも名古屋教区の支援活動にご協力をよろしくお願い致します。
・毎月の支援状況は名古屋教区報で報告。
・各ベースの震災支援状況は仙台教区サポートセンター活動日記のHPに掲載。http://caritasjapan.jugem.jp

支援金振込先
口座番号: 00820-5-137456
名義: カトリック名古屋教区カリタス福祉委員会
※「東日本大震災・災害支援金」と募金の意向を記入願います

ご連絡・問合せ先
名古屋教区カリタス福祉委員会
電話 052-852-1426
FAX 052-852-1422

2020年度正義と平和委員会学習会 第4回

「弱い立場の人たちと共に生きる」

「貧しさから抜け出すためには、まず女性が経済的に自立すること。」

正義と平和委員会主催の2020年度第4回目「弱い立場の人たちと共に生きる」の学習会が、14日には100頭の牛を100人の女性が持つまでに広がった。

ある程度生活に余裕が出てくると、今度は教育支援へとつながっていく。やはり元この支援グループで働き、現在は「このパンセラディ」を営んでいる真見登志子さんの指導で朗読劇を行った。用意された台本に従い、聴衆者がそれぞれ役割を受け持つ参加すること、状況がよいかみやよくなったと感じた。ストーリーは貧しさ故に家庭崩壊となりストリートチルドレンとなった一人の男の子が、ストリートスクールを開いているNGOのスタッフに出会い、そこで読み書きや計算を習って自立していく様子を描いたもの。この学校を支えているのは現地の人々で、他にも

横山さんは1999年にこの会を立ち上げた目的、女性の自立支援を、映像を見せながら振り返り語った。「貧しさから抜け出すためには、まず女性が経済的に自立すること。そのために牧場を経営して雇用するという形をとったが、運営がうまくいかなくなり、雌牛を一頭ずつ女性に提供する方式に変えた。こうして自分の手で直接牛を育て、現金収入を得ることにより、自立意欲につながり生活の向上が見られるようになった。20

教会の暦祝日の変更

毎年、受難の主日に「世界青年の日」を祝ってきたが、教皇フランシスコの要請により「王であるキリストの主日」に今年度から変更する事が決まり、日本カトリック司教協議会もこれにならう事となった。受難の主日(3月28日)↓主であるキリスト(11月21日)に変更。

2021年2月23日は 聖ヨハネ・パウロ二世教皇が 初訪日されて40周年

聖ヨハネ・パウロ二世(空飛ぶ聖座)と呼ばれる教皇が1981年2月23日に日本を初訪日されて今年で40周年を迎えた。聖ヨハネ・パウロ二世は「旅する教皇」といわれたパウロ6世を遙かに凌ぐスケールで全世界を訪問し、「空飛ぶ教皇

「あとから来る者のために」再開!

コロナ禍で一休会を続けていた、原発勉強会「あとから来る者のために」は、2月13日、教区センター別棟で再開した。コロナ感染防止のため、今回は広く呼びかけず、主催する、次世代を考える会の会員7人が参加した。

今回はまず、西谷恭子さん(布池教会)が用意したビデオ、NHK青森放送局発、発見!あおもり新発見「動き出す核燃料処理工場 未来は託せるか」(2020/11/13放送27分)を見た。



原子力委員会による「正式合格」した青森六ヶ所村使用済み核燃料再処理工場。稼働秒読み段階となった今、安全面の備えは大丈夫か?地域への経済効果は?と問いかけて、核燃料リサイクル政策の今後を左右する施設の現状を取材したドキュメンタリーである。

大海明敏神父、愛知県弁護士会 「人権賞」を受賞

「困っている人に目を向けること イコール信仰生活」

愛知県弁護士会は毎年、人権に貢献した個人、又は団体に「人権賞」を贈っているが、今年度は大海明敏神父(56歳)が選ばれ、2月16日に県弁護士会館で表彰式が行われた。

また、大海神父は受賞の理由を詳しく「技能実行者」に目を向けることイコール信仰生活です。私たちが行動を起こせば、社会の現実が見えてくる」と答えて返ってきたと言った。

大海神父はボートビルとしてベトナムから船で逃れ、インドネシアの難民キャンプを経て1984年に来日した。「一人では何もできないが、日本人も外国人も互いに励まし合い、支え合う場所が必要だった」との思いから召命を感じ、99年に司祭叙階。叙階後は主に神戸や大阪で難民の支援、また阪神淡路大震災の多くの外国人被災者支援の活動に当たった。その後名古屋に異動し、南山、恵方町各教会で司牧をしながら、日本で生活し、働いているベトナム人の支援活動をつづけてきた。毎月ベトナム語のミサを行い、留学生や技能実習生たちに日本語を教え、コロナ禍で仕事が減ったという実習生たちの相談にも乗っている。4年前からカトリック五反城教会(名古屋市中村区)の主任司祭を務めている。

教皇フランシスコ 来日公式記録 DVD 完成

申込期間が5月末まで延長

2019年11月、聖ヨハネ・パウロ二世以来、38年ぶりに来日したローマ教皇フランシスコの4日間。その軌跡と言葉を後世に伝えるため、公式記録DVDを制作。歴史的な瞬間をぜひ映像でご体験ください。申込期間が5月末まで延長されました。



※ご感想を、こちらよりお寄せください。お寄せいただいたご感想は、中央協議会ホームページ、SNS、カトリック新聞、その他関連のチラシなどで、本記録DVDを紹介する際に公表させていただきます。

新刊書紹介

教皇使徒的書簡 父の心で— 聖ヨセフを普遍教会の保護者とする宣言 150周年を記念して—



教皇ピオ九世による聖ヨセフを「普遍教会の保護者」とする宣言の150周年を記念して、2020年12月8日に開年したヨセフ年にあたり公布された使徒的書簡。「沈黙の聖人」とも呼ばれるヨセフに、コロナ禍にあって社会を支える多くの無名の人々を重ね合わせ、聖母と幼子イエスを献身的に保護したその生き方を通して、「み摂理への信頼をいつも第一とし、困難をチャンスに変えることのできたナザレの大工のように創造的な勇気をもてるならば、神は大切なものを必ず救ってくださる」とのメッセージを伝える。

なお、ヨセフ年の免償を規定する教皇庁内教院の教令と、教皇ピオ九世の宣言を告知する1870年の礼部聖省の教令「クエマドモドゥム・デウス」を併録。原文タイトル PATRIS CORDE 著者 教皇フランシスコ 発行 2月20日 価格 本体150円(税込み165円) ご注文・問い合わせは カトリック中央協議会出版部まで 〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館 電話(03)-5632-4429 FAX(03)-5632-4456

4月の教会暦

1日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
2日(金) 聖金曜日(主の受難)(大斎)
小斎
聖地のための献金
3日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭)
4日(日) 復活の主日(祭)
11日(日) 復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
18日(日) 復活節第3主日
25日(日) 復活節第4主日
世界召命祈願の日
29日(木) 祝聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士(記)

5月の主な教会暦(主日・祭日など)

2日(日) 復活節第5主日
9日(日) 復活節第6主日
世界広報の日(献金)
14日(金) 聖マチア使徒(祝)
16日(日) 主の昇天(祭)
23日(日) 聖霊降臨の主日(祭)
30日(日) 三位一体の主日(祭)

教区行事予定 (*松浦司教)

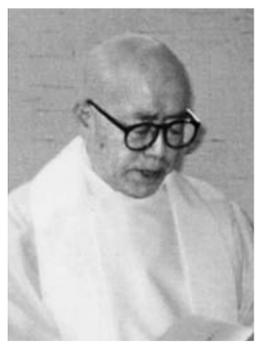
4月
7日(水) カリタス福祉委員会
9日(金) 正義と平和委定例会
10日(土) 殉教者委定例会/信徒協役員会
11日(日) 中高生会/福井教会堅信式*
13日(火) 樹の会
15日(木) 教区顧問会*/月集*
17日(土) レジオ名古屋クリア

告知板

18日(日) 愛岐B会議/青年委員会/修女連「総会」*
20日(火) カトリック看護協会例会
24日(土) 典礼委員会
25日(日) 殉教者祭(金沢卯辰山)/五反城教会堅信式*
5月
8日(土) 宣司評運営委員会/殉教者委定例会/信徒協幹事会/共助連絡会
9日(日) 城東B会議/中高生会
11日(火) 樹の会
12日(水) カリタス福祉委員会
14日(金) 正義と平和委定例会「学習会」
15日(土) 樹の会「総会」/レジオ名古屋クリア
16日(日) 城北B会議/インターナシヨナルミサ/青年委員会/一粒会「委員総会」
20日(木) 月集*
22日(土) 典礼委員会
23日(日) 北陸B会議/布池教会堅信式*
27日(木) 教区顧問会*
29日(土) 教区法人評議員会*
30日(日) 愛岐B「兄弟の集い」/富山教会堅信式*

教区行事以外の松浦司教予定

8日(木) 常任司教委員会 日本難民移住移動者事務局会
12日(水) 社会司教委員会
13日(木) 常任司教委員会
31日(月) 南山学園評議員会



1930年3月24日大阪府生まれ、48年3月マリア会で初修道誓願。58年7月20日フリップール司教座聖堂(スイス)にて司教叙階。82年3月マリア会より名古屋教区へ移籍。97年4月名古屋教区主任司教。98年6月鳴海教会主任司教。2005年11月鳴海教会協力司教。08年3月鳴海教会管理者。13年引退し、自宅で妹の介護を受けながら病氣療養していた。

めぐみかん ガンバレ!! by あこ
人生ってなんだか オセロっぽい いったって 唄境と逆境の せめぎあい

でも!!
やがていつか 必ず置き換え られていくに 決まってる

間は光に 絶望は希望に
神さまが四隅を 押さえてくれる ことを知っている 僕らが...ます

父 子
とんやけ! ハッピーどんやけ!
祝ご復活2021

サダナ ~神への道~
【入門コース】
聖イグナチオの霊性を基に、「心と知性の静けさ」「神様との個人的な触れ合い」を体験します。
日時 入門A 4月29日(祝) 9:30~17:00
入門B 5月23日(日) 9:30~17:00
入門C 6月20日(日) 9:30~17:00
場所 聖霊会八事修道院 ミッションセンター
名古屋市昭和区八事本町1番地 (駐車可)
指導 植栗 彌神父 (イエズス会)
問合せ 攪上 暁子
メール ngosdn@gmail.com
☎050-7108-7410
ホームページは右 QR コードより

建設費の返済に協力を
623件 30,706,995円
目標額 40,000,000円 (3/3現在)
達成率 約76.7%
郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

訃報 ヨハネ・ボスコ寺田正親神父(名古屋教区)
3月9日聖霊病院にて帰天。91歳。
1930年8月2日韓国ソウル市生まれ。60年3月18日東京・麹町教会にて司教叙階。60年4月布池教会助任司教。63年9月イタリア・ウルバノ大学大学院留学。66年9月布池教会助任司教。名古屋文化センター設立。87年4月布池外語専門学校設立。校長。2003年1月主税町教会主任司教。13年12月主税町教会主任司教。15年より名古屋司教館で、司教、数人の司教と共に生活していた。

主に捧げる24時間~聖体礼拝
2021年3月末で終了します
主税町記念聖堂で行ってきた主に捧げる24時間と聖体礼拝は2021年3月末で終了します。長い間ありがとうございました
主催 カトリック名古屋教区
☎052-935-2223
責任者 平田政信神父

聖香油ミサ
日時 3月31日(水) 10:30~12:30
会場 名古屋教区司教座聖堂布池教会
司式 ミカエル松浦悟郎司教
野村純一名誉司教 司祭団
内容 聖香油ミサ、司祭叙階、修道誓願、奉献生活誓願の金銀祝。
主催 カトリック名古屋教区
問合せ 名古屋教区本部事務局
☎052-935-2223

一粒会・委員総会
開催のお知らせ
日時 5月16日(日) 13:00~16:00
場所 布池文化センター
コンコルディアホール(布池教会境内地)
出席者 名古屋教区全小教区の一粒子委員
問合せ 一粒会会長 西村由美子
☎090-1279-9932

カトリック名古屋教区
セクシュアル・ハラスメント
対応委員会
ホットライン
☎080-2625-4681
受付時間 月~金(祝日を除く)
10:00~12:00
13:00~16:00
名古屋市東区葵2-6-35
カトリック名古屋教区センター
相談の秘密、プライバシーは厳守します。
安心してご相談下さい。

名古屋オルガンの春&秋
日時 5月2日(日) 15:30~16:30
会場 五反城教会
プログラム Ave maris stella
(めでたし、海の星)他、
聖母マリアの作品
入場 無料(任意の寄付協力)
主催 名古屋オルガンの春と秋
問合せ 二宮音楽事務所
☎052-505-0151
ホームページ
http://organaki.exblog.jp
新型コロナウイルス感染拡大の状況により、演奏会を中止する場合があります。詳細はオルガン秋 HP または二宮音楽事務所。

名古屋教区殉教者祭
金沢・卯辰山
日時 4月25日(日) 13:00~14:30
場所 金沢・卯辰山殉教記念碑広場
内容 殉教者顕彰ミサ
連絡 雨天の場合は金沢教会でミサ
問合せ 金沢教会 ☎076-264-2536
JPIC 勉強会シリーズ
名古屋教区・神言会・聖霊会のJPIC勉強会シリーズは今年度は開催されません。